

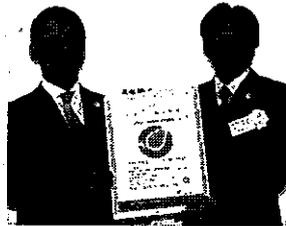
全国の関係者らが出席し、プロジェクトが正式にスタートした

CO₂ マイナスプロジェクト 全産廃連青年部でキックオフ

全国産業廃棄物連合会青年部協議会は19日、「第7回全国大会記念事業推進会議」を横浜市のロイヤルホールヨコハマで開催した。青年部の発案により同連合会主催で行われることになったCO₂ マイナスプロジェクトの概要などが紹介され、同プロジェクトが正式にスタートした。

青年部は創立10周年を迎え、来年11月23日に横浜市で「海よ、空よ、大地よ」をキャッチフレーズに全国大会を開催す

グリーン電力証書を掲げる加藤会長（右）と中西社長



る。記念事業として年間を通じた取り組みを模索した結果、CO₂削減に取り組むことを決め、連合会に提案。連合会主催、青年部企画・実施で行われることになった。来年度の全国大会ではその表彰式などが行われる。

あいさつした加藤宣行会長は、「我々業界が抱

える問題はこの10年で大きく様変わりし、今まで通りの経営の仕方、業界の動かし方のみでは耐えられないかもしれないというスピードが高まっている。そんな中、県やブロックの代表の方々と協議を重ね、今回のプロジェクトを推進することを決めた。今日からスタートになるので、それぞれ各県に戻って何のためにやるのかを伝えてほしい」などと語った。

同プロジェクトは全国の会員企業がプロジェクト参加のエントリーを行い、それぞれCO₂削減に向けた取り組みを実施、それを発表・表彰するもの。19日の推進会議から本格スタートとなったが、すでにエントリーの受け付けを先行して開始しており、推進会議

開催前にすでに全国で356のエントリーがあった。

プロジェクトの普及啓発として様々なイベントも企画しており、その中の一つである「電動スクーター全国キャラバン」

では、スクーターに使う電力としてグリーン電力証書を購入。推進会議では、プロジェクトの事務局を務めるカーボンフリーコンサルティングの中西武志社長から加藤会長に証書が手渡された。